

税制調査会（第1回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：令和6年1月25日（木）12時35分

場 所：財務省第3特別会議室

○記者

よろしくをお願いします。

冒頭、翁会長からお願いします。

○翁会長

本日、委員の皆様から選任されまして政府税調の会長に就任いたしました、翁百合と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、総理からいただいた諮問、それから委員の名簿などは、本日の会議を会場でお聞きになられていた方は御承知のとおりかと思えます。また、会場にいらっしゃらなかった記者の方にはお手元に本日の会議資料を配付してございますので、どうぞそちらを御覧いただければと思います。

委員の皆様は、会長代理に御指名させていただきました清家先生をはじめ、いずれの方々も学識経験豊かな先生方ばかりでございます。

諮問のとおり、経済社会は大きく構造変化しておりますので、それを丁寧に見ていきながら、中長期的な観点から税制のあり方について充実した審議を行ってまいりたいと思っております。

今後の具体的な議論の進め方やスケジュールにつきましては、諮問の内容を踏まえながら委員の皆様と御相談しつつ、少しお時間をいただいて検討したいと思っております。

私からは以上でございます。

○記者

今回、就任されたほかの委員の先生方を拝見しますと、女性が多く入っているという印象があります。また、医師や社会保障の専門の先生など、租税の専門の先生だけではなくて幅広い立場の知見を持っていらっしゃる先生方が入っていらっしゃるという印象がありますが、今回の政府税調の新たなメンバーの狙いというのはどのようにうかがえるでしょうか。

○翁会長

私が任命したわけではないので、狙いというわけではなくて受け止めでございますけれども、大変多様な方が入っていらっしゃるということは大変すばらしいことだと思いますし、また、女性比率も今までの税調よりもさらに上がって4割ぐらいになっているということで、多くの女性が入って様々な立場から充実した審議ができるように期待をしております。大変多様性という観点でもよいかと思っております。

○記者

一応確認ですけれども、政府税調の会長に女性の方が就任されるのは初めてなのかどうかと、ジェンダーの質問になってしまいますけれども、女性として政府税調会長とし

てこういった税制にしていききたいとか、こういった意見を強く主張していききたいといった思いやお考えはございますでしょうか。

○翁会長

女性で会長になるのは初めてと伺っております。

特に私自身は女性であるからということは意識しておりません。ただ、いろいろ経験してきていることはありますので、女性であるというか、皆さんもそうなのですけれども、家庭と仕事との両立といった生活上の経験とか、実際に体験してきているとか、エコノミストではございますけれども、それだけでなく生活上や仕事上の経験も税という非常に身近な生活に関係するテーマを考える際に役に立つ面もあるのかなとは考えております。

○記者

昨年ですと、例えば扶養控除の話などが来年度の税制改正大綱にも盛り込まれて、今年の年末に議論され、結論が出される予定ですがすけれども、例えば子供手当の話もございましたが、特にそうした家庭に身近なところに注力していききたいといったお考えはございますでしょうか。

○翁会長

私自身はエコノミストとしてかなり幅広くいろいろなことを取り組んできておりまして、成長戦略や金融関係など、企業活動も含めて様々な分野をずっと見てきております。そういう意味で全体をバランスよく議論できたらと思っております、これだけに集中して特にやりたいということではなく、全体感を持って様々な課題を皆様と議論していきたいと思っております。

○記者

諮問を受けて、これから税制について審議するということなのですが、現時点で翁会長の財政の現状に関する認識やその上での消費税や法人税などの引上げの必要性について、個人的な見解で構わないので、どのように考えていらっしゃるのかということが一点。

それと関連して、財政において日銀の金融政策がもたらしてきた財政への影響についてどのように認識しているかについて、御見解をお願いします。

○翁会長

1 問目につきましては、昨年の政府税調の答申にも書いてございますけれども、やはり人口減少、少子高齢化が急速に進展する中で、中長期的に財政の持続可能性を損なわないということが非常に重要だと思っております。

税の議論だけでなく、税というのは入りの議論ですがすけれども、また、答申にも書いてあるのですがすけれども、出のほうの例えば公的サービスの内容や水準について、租税を負担する国民が納得のいくものでなければならないということも書いてあります。長期的な持続性というのは大事であると思っておりますし、一方で、入りの議論だけでなく、

十分性という言葉もございますけれども、これは大きな政府か小さな政府かといった国民の意向とか、ワイズスペンディングになっているのかどうかといった点も極めて重要だと思っております。

税金というのは国民の生活に大きな影響を与えることを重く受け止めた上でこういったことを考えていく必要があると思っております。

それから、日銀との関係ということに関しましては、国債をたくさん購入しているという事実はございますけれども、それがどのような影響を与えているかということに関しては様々な見方がございますので、私からはその点だけ申し上げておきたいと思いません。

関係していないわけではございませんけれども、今、金融政策も少しずつ物価と賃金の上昇の中で2%というところがだんだん視野に入りつつあるということで、また局面も徐々に変わっていくことが期待されると思っております。

○記者

総理から経済成長と財政健全化の両立を図ってほしいという諮問がありましたが、現時点でどのように税制面で両立を図っていきたいとお考えか、教えていただけますか。

○翁会長

特に個別の項目について申し上げるというわけではないのですが、やはり現在、日本経済はまさに総理もおっしゃったように潮目に来ていると思っております。人手不足というのがだんだん深刻化してきていると思っております。その意味で、長期的に見ると、人手不足のことを考えましても、生産性の向上をしていく、人への投資、そして資本装備率もどんどん上げていくということで、そういった形で生産性を上げて賃金を上げていく。そして、物価を上回る賃金を実現していくということが最大の課題であると思っております。そういうことに資するような税制というのをまず考えていくということが短期的には重要であるかと思っております。

実際、今回の予算案でも入っておりますけれども、まず短期的にはそういうことかなと思っております。

○記者

昨年の中期答申では、給与所得控除や雑所得控除などのバランスの是正にも言及されておりました。ただ、読まれ方としては非課税所得として例示した通勤手当などはサラリーマンを狙い撃ちにした増税ではないかという批判も浴びました。こうした所得税制について、会長としてはどのような方向で改革や考え方を示していきたいのか、お考えを伺わせてください。

○翁会長

やはり経済社会の構造変化を踏まえて、公平かつ働き方に中立的な税制について中長期的な視点から議論していきたいと思っております。

加えて、政府税調の議論は丁寧に発信していくということが大変重要ではないかと思

っております。

○記者

今の質問にも関連しますが、昨年の答申がサラリーマン増税を狙っているのではないかと受け止められた部分もありますし、一方でメディアの論調としてはもうちょっと踏み込んだ議論をしてもよかったのではないかという両面の受け止めがあったと思うのですけれども、なかなかこの負担をめぐる議論を国民の理解を得ながら進めていくというのは非常に難しいことだと思いますが、負担の議論にどう向き合うべきなのかという点で会長は現状、どういったお考えをお持ちなのか、お伺いさせていただきます。

○翁会長

やはり税金というのは国民の生活に非常に大きな影響を与えるということは重く受け止めた上で、自分としては常にいろいろな立場の方がいらっしゃることを念頭に置いて、これから大きな構造変化が起こっていきますので、そういう中でどういう税制がいいのかということを委員の皆様と議論をしっかりと進めていきたいと思っております。

○記者

これまでも会長はエコノミストとしていろいろな政策の提言だったり、令和臨調に入られていて政府に対して提言をされるお立場だったのかなと思いますが、今回、政府税調の会長というお立場になられて、そういったこれまでの発信の活動みたいなことはどういうふうにされていくのか、現状でお考えがあれば、お伺いします。

○翁会長

令和臨調につきましては、個人として参加しているメンバーの意見を取りまとめる立場でございまして、一般的な議題であれば引き続き発信は問題ないと考えております。

私は税調が長いのですが、租税法の先生などがたくさんいらっしゃいますけれども、必ずしも税の専門家というわけではないので、今までもそのこと自体を正面からあまり発信してきておりませんし、そういうあまり個別なことは発信する必要はないのかなとは思っております。

したがって、制約されるとは考えていないのですけれども、税に関連するようなことに関しては、一緒に議論している税調の委員の先生方にあまり迷惑がかからないようなことで、違う分野では随分発信をしておりますので、例えば成長分野への人への投資といったことも非常に重要だと思っておりますので、そういうことについては引き続き発言していきたいと思っております。

○記者

税の議論と同時に社会保障の議論も併せて議論していくことは大事なものだと思いますが、それについての税と社会保障との関係について、翁さんの御見解を教えてください。

○翁会長

大変重要だと思っております。もちろん税と社会保障というのは、同じ負担のように

見えても保険という制度は最終的に医療や年金ということで、全部ではないですけども自分に返ってくるという可能性があるものですから、税と全く一緒ではないのですけれども、それでも国民負担率というのを見たときには税と保険料は併せて見るということが大事だと思っています。やはり保険料の負担がどうなっているのかということも考え合わせながら、税の議論もしていく必要があるのではないかなと思っています。

○記者

政府税制調査会の役割とあり方についてどのように捉えていらっしゃるのかという文脈でお伺いしたいのですけれども、長年関わってこられた方には若干失礼な言い方になってしまうかもしれませんが、近年、政府税調の発信力といいますか、それは政治に対してもそうですし、世の中全般に対してもというものが、私自身からすると薄くなってしまっているという感じがしていて、去年の夏に答申を出されました。いろいろなことが書かれていますが、先ほど別の方が御質問されていたように、サラリーマン増税みたいな若干つまみ食い的に変な議論になりかけたという感じがしたりもしますし、一方で充分性という話も発信されたわけですけども、その辺については正直、その後の秋以降、年末までの実際に起きたことを考えると、政治の世界では全く顧みられることはなかったなという印象を持ちます。定額減税の話は突然出てきてすぐに決まりました。もちろんこれは総理が決められたことなので、その意味は重いとは思いますが、かつ、防衛増税の話は先送りであるとか、ちょっと細かい話になりますが、ほかに退職金課税の話なども議論はされかけましたけれども、結局何も議論は深まらなかったところですよ。

そういうことを考えると、政府税調自身の役割なり、発信のあり方みたいなところも改めて考えるべき点はあるのかなという印象を持っております。これは私の意見ですけども、そういった点について翁会長はどのように考え、どのように自分として役割を果たしていきたいとお考えなのか、基本的なところを教えてくださいませんか。

○翁会長

与党の税制調査会は、毎年、個別具体的な税制改正の内容を議論するという役割です。政府税制調査会は総理の諮問を受けてもっと長い、専門的かつ中長期的な観点から検討を行っていくという役割分担があるとは考えております。

私といたしましては、やはり中長期的な観点で、今、本当に大きな構造変化が経済社会で起こっております。人口にしても、デジタル化にしても、グローバル化にしても非常に大きな変化が起こっておりますので、そういった中で今後も公正で活力ある社会を実現するために、税制がどうあるべきなのかということをしっかり議論して、専門的な視点から世の中にそれを発信していくことができればと思っています。

○記者

政府の減税策について、翁会長の問題意識として伺いたいのですけれども、一つは今の関係でもありますが、去年の中期答申で租特についての言及がありました。今、NISA

を含め、賃上げ、研究開発と個人・法人問わずいろいろな減税策が拡充されています。その中で、去年の書き方ですと、きちんとしたエビデンスに基づかない政策はということとかなり厳しめにある種のブレーキをかけるような書き方もありました。この辺を引き継いでどういった問題意識をお持ちでいらっしゃるのかというのが一つ。

あと、先ほども話がありました所得税の定額減税について、翁さん御自身はどのように評価されているか、併せて伺えればと思います。

○翁会長

私の個人的な考えでございますけれども、やはり30年間、日本経済は低成長に甘んじてきているわけで、今後、国内投資や人への投資を加速させて持続的に生産性を上げていくとか、イノベーションを起こしていくというのは非常に重要だとは考えております。その上でいろいろな租税特別措置が採られたり、減税措置が採られているというところはあるのかなと思っております。

同時に、エビデンスベースで客観的にしっかり検証していくということは、どんな租特などについても大事だと思っております、しっかり検証しながらやっていくということは大事だと思っております。しっかりデータを見ていくということが大事だと思っております。

それから、全体の評価といたしましては、個別の項目につきましては会長の立場としてコメントは差し控えたいと思っておりますけれども、トータルとして、今、本当に潮目になっているということでいろいろな租税措置が取られているわけでございますけれども、その狙いが実現していくということが望ましいと思っております、今後も租特などにつきましても先ほど申し上げたようにしっかり検証していくことが大事だと思っております。

○記者

所得減税については、お考えいかがですか。

○翁会長

所得減税につきましても個別の項目でございますので、コメントは差し控えたいとは思いますが、物価を上回る賃金の上昇ということとともに、まだ今は物価の上昇を賃金の上昇が下回っているという状況の中で、そういった人たちに対してその負担を緩和するということが税制全体としての狙いだと考えておりますので、その目的が実現していくことがいいと思っております。

すみません、個別項目についてはお答えできず、恐縮です。

○記者

法人税について、去年の答申では成長志向の法人税改革についても本当に投資に結びついたのか検証が必要とありました。先ほど会長もおっしゃっていたような租特に限らず、こうした法人税の基本税率についてもエビデンスベースでしっかりと踏み込んだ議論をしていくお考えはありますでしょうか。

また、今、引き下がる一方の法人税率についてどのようにお考えなのか、聞かせてください。

○翁会長

個別税目に関する具体的な改正の方向性については、会長の立場においてコメントすることは控えさせていただきたいと思っております。

いずれにせよ、法人税につきましてもデータでどんな効果が出ているのかといったことをきちんと検証していくということをまずしっかりやることが大事かなと思っております。

○記者

諮問で少子高齢化とグローバル化とデジタル化などとあると思うのですが、全て大事なテーマで、いろいろあると思いますが、特にそれぞれどういことを議論して注力していきたいとお考えか、具体的にお願いできますでしょうか。

○翁会長

少子高齢化に関しては、人口動態が非常に重要だと思っております、人口動態は少子高齢化もそうですし、人口が減少していくということが非常にこれからの日本社会・経済の大きな課題だと思っております。それは非常に大きな変化であると考えておまして、そこをどう捉えていくかというのは大きな中長期的なテーマであると思っております。

デジタル化も非常に大きく進んでいるので、私たちの働き方もすごく変わってきているし、ビジネス環境も大きく変わってきています。それから、納税環境です。納税環境整備においてもデジタル化は非常に重要だと思っております。

グローバル化は、今まで随分日本がリードを取ってBEPSプロジェクトなども進めてきておりますけれども、引き続きこの議論をさらに深めていくことが大事かなと思っております。

あと、環境変化ということだと、人々の働き方、生き方が非常に多様化しているといったことも非常に踏まえるべき重要な変化であろうと思っておりますので、そういった中で公正性や中立性をどうやって保っていけるのかということも考えていきたいと思っております。

○記者

少子高齢化でいうと、例えば配偶者控除などを含めてどういうところで税制面から支えると言ったらあれですけれども、課題解決にどういうところがより項目になってくると思っていらいっしょにいますでしょうか。

○翁会長

少子高齢化につきましては、先ほども御質問がありましたけれども、社会保険の問題でもありますけれども、税も大きく関係しておりますので、社会保障の支出をどういふふうを支えていくのかというのが大きな課題なのだろうとは思っております。そこが非常に重要だと思えますし、一方で、少子化が加速しないようにしていくためにはどうい

うふうに若年層の負担を考えるべきなのかということも大事になってきますし、いろいろ考えるべきことがあるなと思っております。

○記者

社会保障のところで、先程も質問がありましたが、これからどんどん費用がさらに膨らんでいくと見られていて、経済学者などの中でも消費税増税が有力な選択肢ではないかという声も多いと思うのですけれども、消費税の増税についてはどうのお考えをお持ちでしょうか。

○翁会長

個別税目に関する具体的な改正の方向性については、会長の立場においてコメントさせていただくことは控えさせていただきたいと思っております。

いずれにせよ、経済社会がすごく大きく構造変化していますので、その中で様々な税がございますので、消費税にしても、所得税にしても、法人税にしましても、それぞれに特徴や機能がございます。税制全体としてどう考えていくのかということは今後、議論していければなと思っております。

○記者

始まったばかりで恐縮なのですが、スケジュール感といいますか、いつぐらいまでに最初の答申をまとめたいなというお考えがもしあれば、お願いいたします。

○翁会長

今日始まったばかりなので、これから委員の先生方と御相談しながら考えてまいりたいと思っております。

○記者

質問がないようなので、終了いたします。ありがとうございました。

[終了]